



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/25 (月)	+ 600	+ 12,300	+ 12,900	国庫短期証券発行・償還 (3M) 各種財政資金の支払い	CP等買入 ▲ 200 社債等買入 ▲ 200 国債補完供給 + 37,400		日：植田総裁の講演 (大阪市にて) 内田副総裁が全国証券大会で挨拶
9/26 (火)	▲ 300	▲ 2,000	▲ 2,300				
9/27 (水)	トン	▲ 22,000	▲ 22,000	国債発行 (40年) 各種財政資金の貸し付け回収	共通担保 (全) ▲ 9,400		日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月27・28日開催分) 景気先行CI指数 (7月)
9/28 (木)	▲ 2,000	▲ 1,000	▲ 3,000				米：パウエルFRB議長、タウンホール会議を主宰 欧：ECB経済報告
9/29 (金)	+ 1,300	▲ 1,400	▲ 100				日：東京CPI (9月) 欧：ユーロ圏CPI (9月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初19日、543兆9,400億円から始まった。その後は20日の国債大量償還、21日の国債買入オペ等もあり、22日には548兆1,600億円まで増加し、越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、ビッドサイドの様子見姿勢が強く、前営業日比▲0.016%の▲0.059%から始まった。その後はビッドサイドの調達意欲の強まりから、同金利は上昇基調を辿り、▲0.039%まで上昇し越週した。

ターム物は月内エンドの1W物を中心に▲0.050%～▲0.025%のレンジで出会いが見られた。

日銀は21・22日に開催した金融政策決定会合において、現行の金融政策の維持を決定した。来週の主な予定は、国内で25日に植田総裁の講演、27日に日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月27・28日開催分) の公表などが予定されており、海外では28日にECB経済報告、29日にユーロ圏CPI (9月) の公表などが予定されている。

<レボ>

足許TNGCは週初から週央まで▲0.17%～▲0.16%のレンジで推移した。

21日には▲0.20%近辺から出会い始め、後場に▲0.20%台半ばまで低下。

政策決定会合の二日目となる22日の取引では一時▲0.20%台後半で出会いが見られたが、後場には▲0.10%台半ばまで上昇した。SC取引は2年438～452回債、5年149～161回債、10年350～371回債、20年180～185回債、30年65～79回債、40年13～16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約7,500億円で、週間償還額 (約6,700億円) を上回った。発行市場は不動産や医薬品等の業態で大型の発行が見られたものの、週を通して案件数は少なく落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末時点の26兆8,799億円から9月21日時点で26兆9,650億円に増加した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出会いが中心であった。

来週の償還額は月末日の大量償還 (約4兆700億円) を含み約4兆9,600億円となっている。発行市場は期末の有利子負債圧縮に向けた動きから償還超となる見込み。発行レートは金融政策修正の警戒感等から、発行期間の長短に応じてレート水準にばらつきが見られる展開を予想する。26日に、CP等買入れオペが4,000億円でオフアされる予定となっている。

<TDB>

19日の1Y (1183回債) の入札は、最高落札利回り▲0.0189% (前回債▲0.0559%)、平均落札利回り▲0.0378% (前回債▲0.0679%) となり、

21日の3M (1184回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1383% (前回債▲0.1337%)、平均落札利回り▲0.1507% (前回債▲0.1406%) となった。

来週は29日に3Mの入札が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010